

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般-92

学校名・団体名	周南市立大河内小学校
HPアドレス	http://www.shunan.ed.jp/ohkawachisho/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	しっかり食べて 元気もりもり 大河内っ子
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校では、児童の心身の健康増進を図る上で基盤となる「食べる力をつける」ことに視点を当てて正しい食習慣が身に付くように、命を生み出す・命をつなげる・命を守る体験活動と、食に関する指導を学校・家庭・地域が連携して取り組んできた。</p>	

I 研究の目標

- ①食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解する。
- ②心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、自ら管理していく能力を身に付ける。
- ③正しい知識、情報に基づいて、食物の品質及び安全性について自ら判断できる能力を身に付ける。
- ④食物を大事にし、食物の生産に関わる人々へ感謝する心を育む。
- ⑤食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける。
- ⑥各地域の産物、食文化や食に関わる歴史等を理解し、尊重する心をもつ。

II 主な活動内容

1 食に関する指導(目標①②③⑥)

栄養教諭が年間計画に沿って食育指導を行ってきた。1学年生活科「ぐんぐんそだてみんなのやさしい」、2学年生活科「町をたんけん!給食センターへ行こう」学級活動「どのように食べたらよいのか」、5学年家庭科「作っておいしく食べよう」「診断しよう!わたしの朝ごはん」、6学年家庭科「1食分の食事について考えよう」を行った。各教科における内容と学校給食の食材や献立を関連付けることで効果的な指導とすることができた。



2 いきいきモウモウスクール(目標③④⑥)

4学年が山口県畜産振興協会を始め農林事務所、酪農家の皆様のご協力で子牛とふれあって搾乳・バター作り体験をした。牛のブラッシングと心音を聴診器で聞くことを通して命を感じることができた。また、酪農家から飼料の種類や与え方に苦労や工夫があることを教えていただいた。さらに、搾乳キットを使つての搾乳体験やバター作り体験を通して、長い歴史を得てバター作りがあることを知ると共に感謝の気持ちをもつことができた。



3 野菜作り(目標②③④⑥)

本校の周辺には田畑を耕作される農家がある。そこで、農家の方(野菜作り名人)から学びながら全校で野菜作りに取り組むことにした。まず、野菜作り名人から育てる野菜の特徴や育て方、食べ方等を教えていただき苗を植えた。その後、児童は施肥や除草、支柱立て等を行い立派な野菜を収穫し調理して食べるすることができた。5学年は田植えやバケツによる米作りにも挑戦した。全校で10種類以上の野菜や米作りを通して、育てる楽しさや収穫の喜びを感じると共に、農家の苦労も知ることができた。



4 味噌造り(目標②③⑤⑥)

5学年が(株)シマヤによる出前授業で日本に伝わる味噌造りをした。味噌は食事に欠くことのできない食材で児童にとって身近なものである。始めに、味噌や大豆の種類、地方によって好まれる味噌の違い、味噌の造り方等を教えていただいた。児童は大豆を煮て小さく揃つつぶし、麴や塩を混ぜて味噌玉を作り樽に詰めた。2ヶ月後に樽から取り出した味噌を家庭科の調理実習で味噌汁に使い味わって食べた。児童はスーパーマーケットでしか見ることのない味噌が作られることに感動した学習であった。



5 給食に関わる人を知ろう・給食ありがとうの会(目標③④⑤⑥)

5学年は給食に関わる人(農家、JA、栄養教諭、給食センター長・調理員等)から、食材の生産・納入・調理・搬送に至るまでの話を班毎に聞いた。また、事前に用意していた質問もあり有意義な話し合いがなされた。その後、全校児童による「給食ありがとうの会」が開かれて、給食にたくさんの人が繋がっていることを知ることができた。それぞれの立場から、給食に寄せる思いを伺うことができ、児童は感謝の気持ちを感謝状や児童代表の言葉に表した。この日を境に給食の残食が減ってきたようだ。



III 成果と課題

児童は、①命を生み出す(作物生産活動)、②命をつなげる(料理体験活動)、③命を守る(加工・保存体験活動)活動を通して命の尊さや感謝の気持ちを持ち、しっかりと食べる児童が増えてきた。また、食育指導や総合的な学習により、食に対する知識も身に付いてきた。さらに、保護者や地域を巻き込んだ活動を通して徐々にではあるが児童に正しい食習慣が身に付いてきたようである。しかし、バランスのよい食事できていない家庭や正しい食習慣が身に付いていない児童もいるという実態があり、今後は個別に支援していく必要がある。